

空間コードから 共創する中川運河

—— 「創造力の空間」でありつづけるために

竹中克行

空間コードとは

- 時の断面から地域空間の持続的文脈を可視化する言語
- 「らしさ」を継承・進化させるためのコミュニケーションツール
- 人々に種を蒔いてもらうための苗床のデザイン



装幀：クレメンス・メッツラー

空間コードの考え方

①都市のランドスケープ

- 土地と人の関わりがつくる都市の「不易」
- 「百年の計」を立てる計画・土木
- 「しなやかさ」をつくり出す土地利用

【文献】武内和彦『ランドスケープエコロジー』朝倉書店, 2006 年.

空間コードの考え方

② 「らしさ」を紡ぎ出す人々

- ランドスケープを舞台とする町の立役者
- 地域によって異なる当事者の構成
- 空間を共同利用する作法をつくる人々

【文献】高村学人『コモンズからの都市再生』ミネルヴァ書房,
2012 年.

空間コードの考え方

③メディアとしての景観

- 関係性を映し出す視覚的な形象
- 「それとわかる」都市の空間構成
- 視覚が触発するシビックプライド

【文献】小浦久子『まとまりの景観デザイン——形の規制誘導から関係性の作法へ』学芸出版社，2008年．

空間コード 研究の枠組み

理論

第Ⅰ部 空間コードとは

第Ⅱ部 中川運河を発見する

A

都市のセカンド
ネチャー

B

共演する
土木・緑・建築

C

時代を拓く
市民のアリーナ

分析

第Ⅲ部 中川運河の空間コード

A1

海に向かう都市の層

B1

運河を挟んで向き合う

C1

名古屋の大静脈

A2

閘門式運河の水面

B2

インダストリアル空間

C2

インタラクトする水土

A3

人工の自然堤防

B3

鳥と風が運ぶ都市の緑

C3

「自然」とのつきあい

A4

緑のコリドー

B4

連続体の美学

C4

創造力の空間

第Ⅳ部 空間コードを発見する技

データから
発見する

中川運河の隣人

運河景観の定点観測

運河に生える自然

蘇る運河建築

応用

第Ⅴ部 空間コードの応用

ワークショップと
フィールドワーク

プロジェクト研究

中川運河コンペ など

C4 創造力の空間

——「泥の河」に息づくアート

6



映画「泥の河」より

タイムカプセル中川運河

■「泥の河」に佇む時間

昭和 31（1956）年の大阪

静かな水面と質素な建物群

■インフラとしての制度

港湾関係者に限定された土地利用

^{うつわ}
「器」 = ランドスケープの重み

⇒ なぜ中川運河でアートなのか？

⇒ 中川運河に必要な仕組みは何か？

C4 創造力の空間

——「泥の河」に息づくアート

7

水辺の境界性

■ 結界の空間

社会システムの内と外
この世とあの世の境界

■ 「河原」に胚胎する文化

■ 並行する時間

新田集落から「青い郊外」へ
置き去りになった船の仕事場

■ 緊張感が漂う舞台

- ⇒ なぜ中川運河でアートなのか？
- ⇒ 若い人が挑戦したいことは何か？



橋上から見る中川運河

撮影：竹中克行

C4 創造力の空間

——「泥の河」に息づくアート

8

気づきを与えるアート

■ 運河に潜在する舞台性の発掘

* 舞台に変わる物置場 * 揺らぐ「土場」

■ 作品づくりの一部をなす運河

* 作家と運河の出会い * 運河と人の関係づくり

⇒ 何のためのアートなのか？

⇒ それは社会・経済とどう関わるのか？

中川運河アート



C4 創造力の空間

——「泥の河」に息づくアート

9

風景とインタラクトするアート

■参加による価値の発見・共有

*遊びからアートへ *作品と一体化する制作過程

■新しい「広場」をつくる

*動機づけのデザイン *地域のエンパワーメント

⇒ 何のためのアートなのか？

⇒ それは社会・経済とどう関わるのか？

中川運河アート



関連するその他の空間コード

C1 名古屋の大静脈

B2 インダストリアル空間

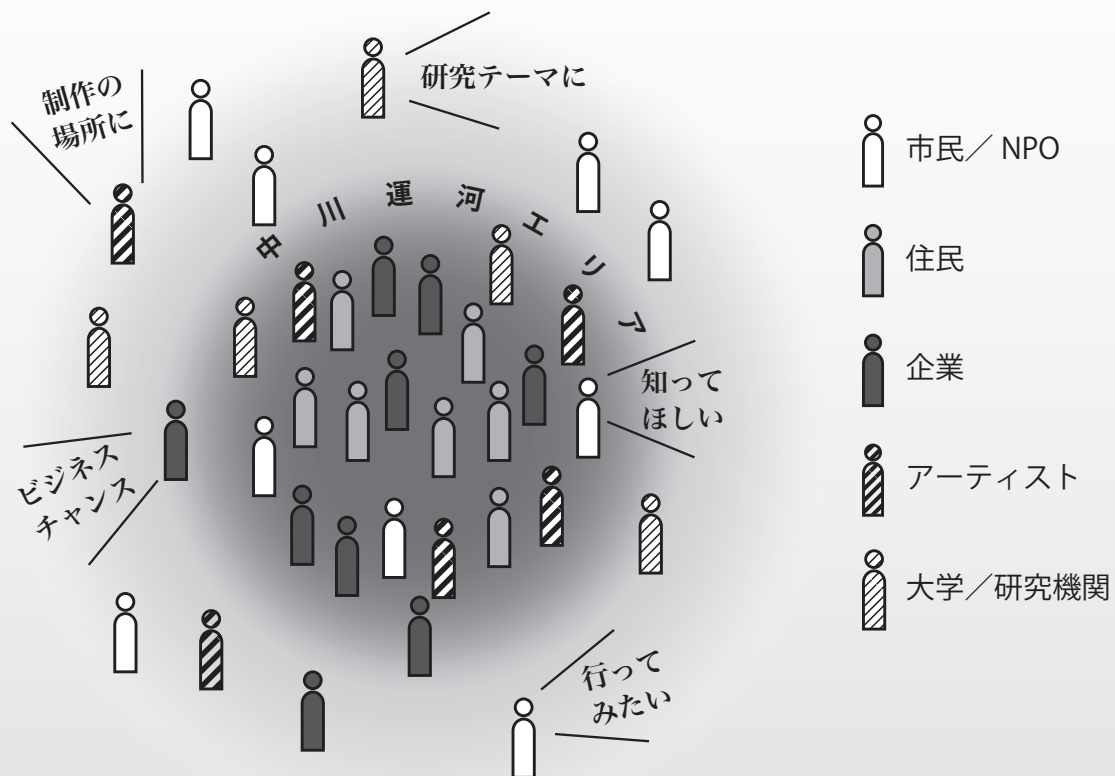
C2 インタラクトする水土

B1 運河を挟んで向き合う

...

共創の実践に向けて

——いくつかの選択肢



作成：内山志保

■ 「らしさ」のデザイン

アイデアの引出しとしての有用性

■ デザイン基準の協議

異なる空間ユニット間の関係調整

■ 都市デザインのコンペ

グローバルな発想へのローカル知の統合

■ 地域発信の拠点づくり

市民団体の探求活動を支える共通言語

■ 行政計画の活用

継続的マネジメントのためのツール

共創の実践に向けて

——新しい公共圏の模索



-  市民／NPO
-  住民
-  企業
-  大学／研究機関
-  アーティスト
-  行政
-  連携組織
専任スタッフ

作成：内山志保

■ 産官学民の連携組織

都市政策推進のための専門性

地域・社会が認知する代表性

アーバンデザインセンターの実例

■ 研究実践として

《都市コミュニケーション研究所》

空間コードの方法論の深化

空間コードの表現法の開発

空間コードの有効性の検証

【中川運河オープンディスカッション】

* 動機づけのための基盤知識

* グローバルフローとの接合

* 研究成果の国際発信

終